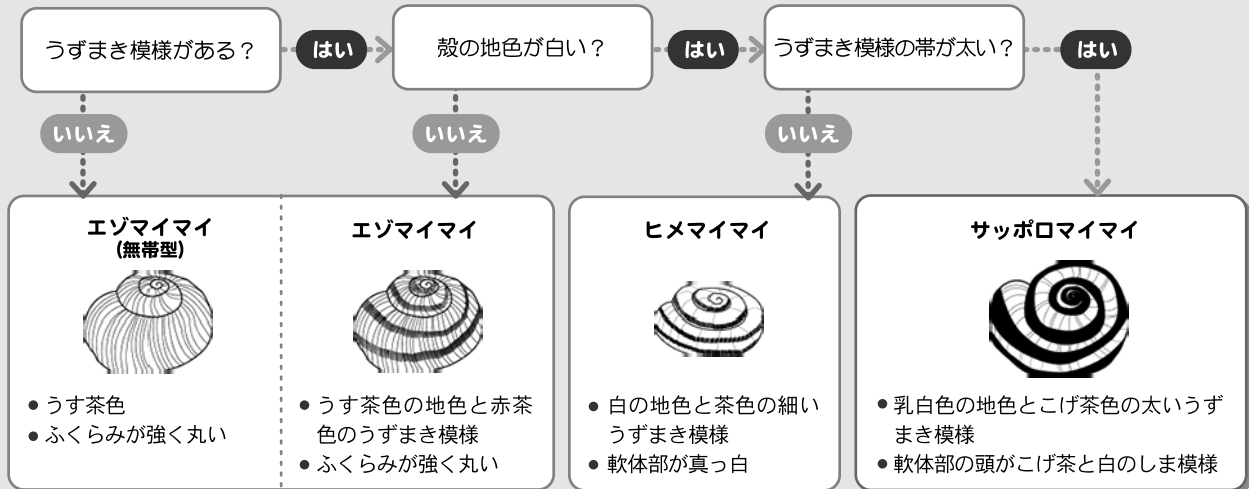




札幌のカタツムリ ～見分けのポイント～



(イラスト：相馬絵美)

※カタツムリの外見は個体差が大きく、ここでは図鑑にもとづき、それぞれの種の現れやすい典型的な特徴で分けています。あてはまらないカタツムリを見つけたら、実物が写真を持って活動センターへ。(観察した後は、捕まえたもの場所に戻してください。)

連載 豊平川に眠る人魚 ⑫



最古の大型カイギュウ!!!

私はサンディエゴ自然史博物館のあるバルボア公園の近くに宿をとり、毎朝 20 分ほど公園の中を歩いて博物館に通うことにしました。トムの研究室と収蔵庫にはさまれた 40 m ほどの部屋が私に与えられました。まずは収蔵資料リストの中からカイギュウ化石を選び出し、その標本番号をたどって資料を探し出します。そして、それをいくつか台車に積んで運び、こわさないように注意して机の上に静かにのせます。まずは写真撮影、それから主な特徴を図に書き込みながらのスケッチ、そして最後に全体を計測し細かく記録します。それぞれのスケッチには化石を採取した場所と地層、その年代と一緒にメモしておきます。地味な作業ですが、資料をひとつひとつ調べていくうちに、少しずつ事実がみえてくるのが実感できる、わくわくどきどきの楽しい作業です。

調査の結果、サンディエゴをはじめアメリカ西海岸のヒドロダマリス属はどれも 710 万年より古い資料はありませんでした。つまり、サッポロカイギュウより 100 年以上新しい時代のものです。この事実をトムに話すと「最古のヒドロダマリスは日本から登場した。今後、北太平洋のカイギュウ類の進化とその謎については日本からの資料が明らかにしてくれるだろう」と言って、私と一

緒にとっても喜んでくれました。

※07 年 10 月に起きたサンディエゴ周辺の山火事は、トムの家の直前まで迫ったところで鎮火したそうです。(古沢)

